

ドローンで遊休農地を調査

舞鶴高専と実用化めざし共同研究

舞鶴市農業委員会は、本年度、舞鶴工業高等専門学校（舞鶴高専）と「遊休農地対策に係るドローン活用共同研究」を白糸・青葉地区（8カ所）で実施している。8月8日から23日に山間部の農地利用状況調査をドローンを使って行った。

舞鶴市農業委員会

白糸・青葉地区で実証実験

舞鶴高専の西村良平さん（技術専門職員）が、ドローンの飛行ルートや自動撮影プログラムの設定と撮影、農地判定会議で使用する写真の合成加工など、専門技術が必要な作業を担当。農業委員と農地利用最適化推進委員は、事前に各地区の自治会長や農事組合長に調査方法を説明し、ドローンの上空飛行の了解を得て、当日の撮影に立ち会った。

昨年度の実証実験でドローン映像による非農地判定を試験的に実施した結果を踏まえて、今回は高度1000mの上空から3種類の映像（動画、静止画、360度パノラマ画）を撮影した。

白糸・青葉地区では、9月29日と30日に地区別会議（農地判定会議）を開催し、撮影した映像と地図を照合しながら課題を明確化し、来年度以降のドローン調査拡大と実用化に向けた検証を行う予定だ。

舞鶴高専教授の尾上亮介委員（中立農業委員）は、「地域活性化に向けて連携協定を締結した舞鶴市など京都府北部の自治体と協力し、農業や農村の課題解決に貢献していきたい」と話している。



左から池田三郎委員、前田隆文委員、西村良平さん（高専技術専門職員）、松永蒼さん事務局、尾上亮介委員（高専教授）と調査に使用したドローン（手前）

全農家（6502世帯）に農委だより号外配布

農推進協議会（11地区推、21組織）の意見を集約し、同市の来年度予算編成に反映するため、8月23日、藤田重行会長から大橋一夫市長に要請書を提出した。

当日は、農業者を代表する農業委員会として、農家の思いや熱意を市長・理事・担当課長に直接説明し、「地区推単位の京力農場プランの推進体制整備」や「水田活用の直接支払交付金に係る補填策の創設」など重点6項目を中心に話し合った。

農業者の意見を行政機関に提出して施策の実現に努めることは農業委員会法38条に基づく大切な業務であり、農家内容に正確に伝えるため、「ふくちやま農委だより」号外を作成。9月中旬に市内全農家（6502世帯）に配布する計画だ。

福知山市では、農業委員会の意見を踏まえて施策の検討と来年度予算の編成を行い、来年3月ごろに反映状況を農業委員会に説明することが予定されている。

全21地区推の意見を集約！ 来年度の施策・予算を市長に要請

福知山市農業委員会

福知山市農業委員会は、市内すべての地区営

市長に要請！ 令和5年度 農林業施策の予算

市長に要請！ 令和5年度 農林業施策の予算

市長に要請！ 令和5年度 農林業施策の予算

市長に要請！ 令和5年度 農林業施策の予算

女性委員の登用促進を要請

きょうと女性農業委員・推進委員の会

「きょうと女性農業委員・推進委員の会」（山町村で女性委員の増加をめぐり、市町村長と農業者の意見交換）

女性委員がいない町は、山下会長が巡回訪問した。9月2日に笠置町農業委員会（田中豊次会長）、同6日に宇治田原町農業委員会（山中茂治会長）と懇談して女性委員誕生に向けた取り組みを要請した。

宇治田原町農業委員会の山中会長は、「JAや関係団体、委員の知り合いに声をかけることも、農業委員会だよりやホームページでも呼びかけたい」と応じ、協力を約束した。



宇治田原町農業委員会の山中会長（左）に要請書を手渡す山下会長

農業委員長への要請文書を作成し、各農業委員会女性委員から登用促進に向けた取り組みを働きかけている。

女性委員がいない町は、山下会長が巡回訪問した。9月2日に笠置町農業委員会（田中豊次会長）、同6日に宇治田原町農業委員会（山中茂治会長）と懇談して女性委員誕生に向けた取り組みを要請した。

宇治田原町農業委員会の山中会長は、「JAや関係団体、委員の知り合いに声をかけることも、農業委員会だよりやホームページでも呼びかけたい」と応じ、協力を約束した。



笹畑の間を散策できる「竹の径」を案内する清水まさ江委員（左）、長谷川佳代子委員

また、これまで農家が笹の生産を通じて維持してきた竹林の景観は、西ノ岡・竹の径の緑の散策路として京都府の景観資産に登録されています。

農業委員会では、毎年1月に2日体制で3日間かけて農地利用状況調査を行い、景観資産の笹畑が荒廃農地にならないよう取り組んでいます。

女性委員は2人で、ともに2期目です。

農業委員として、美しい竹林が今後も維持されるように、力を合わせて頑張りたいと思います。

（向日市農業委員会・長谷川佳代子委員、清水まさ江委員）

女性委員が「つないで発信」

つないで発信

女性委員が「つないで発信」

現場の想い

現場の想い

地域の農業者や農業模の拡大をめざす野菜農家の大半は、簡単に農地を借りられない。農地を借りられず、苦労して作られた「人・農地プラン」が法定化され、いるのが現状だ。耕作条件が悪い場所を除くと、都市近郊で5〜10年後に定めた「地域計画」を定めることも、農業経営基盤強化促進法によ

農deきらきら

農deきらきら

生涯現役イチジク農家

生涯現役イチジク農家

生涯現役イチジク農家

京丹波町 岩崎壽一さん

京丹波町曾根で7年前からイチジクを栽培する岩崎壽一さん（85）は、もともと町特産「丹波栗」の栽培歴60年以上のベテラン農家だ。

イチジクが嫌う雨風を避けるため、ハウスの中にマルチを施し灌水施設も整えた。ハウス内のイチジクは15本で、一文字仕立ての約4本の樹形が見事に整えられている。品

甘い果実にアリなどの虫が侵入しないよう、普及センターの指導で根元に砂糖と蜂蜜を混ぜた液を置くことで解消している。岩崎さんが培ってきた技術や知恵が次世代につながることを願っている。

（京丹波町農業委員会）